

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策I-3-3
外国人観光客誘客の強化

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 観光振興課長 木次 淳 電話番号 0852-22-5625

事務事業の名称	山陰デスティネーションキャンペーン	
目的	(1) 対象	さまざまな観光ニーズを持つ人々
	(2) 意図	鳥取県や広島県など中国地域各県と連携して、国内・海外の観光客へ向けた情報発信や誘客対策などを実施し、広域周遊観光を促進するとともに、更なる観光誘客を図る。
事業概要	実施主体 山陰デスティネーションキャンペーン協議会（JR、鳥根県、鳥取県、両県の市町村、観光関連団体、民間事業者等により組織） 対象者 JR6社及び全国の旅行会社、マスコミ及び観光客 内容 H28 山陰デスティネーションキャンペーン協議会を設立 H29 プレDC 基本計画を策定、全国宣伝販売促進会議の開催（8月）、受入体制の整備 H30 デスティネーションキャンペーン本番（7月～9月）全国で各種媒体での広告宣伝事業、イベント開催等 H31 アフターDC	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	観光入り込み客延べ数	目標値	33,370.0	33,530.0	33,690.0	33,850.0	34,000.0	千人
	式・定義	毎年の観光動態調査結果	取組目標値						
				実績値	33,171.0	33,119.0	32,303.0		
2	指標名	全国宣伝販売促進会議参加者	目標値			500.0			人
	式・定義	会議の参加者	取組目標値						
				実績値			700.0		
			達成率	99.5	98.8	95.9	-	-	%
			達成率	-	-	140.0	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	56,000	45,000
うち一般財源 (千円)	56,000	45,000

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 鳥根県への観光客は近年漸減傾向にある。（観光入り込み客延べ数 H28：33,119千人→H29：32,303千人）
- 出雲大社や石見銀山など鳥根を代表する観光施設以外の観光施設の知名度が低い
- 旅行商品に組み込まれるなど、観光客を誘致できる新たな観光素材が少ない
- JR西日本、鳥取県と連携し、山陰デスティネーションキャンペーンを実施し、今後、来年度のアフターキャンペーンに向けて準備を進めている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

OH29 プレキャンペーン
 ・プレキャンペーン中の誘客対策として、各市町村から観光素材の提案を受け、旅行会社へ提案した。結果として、4社により旅行商品の造成に至った。
 ・全国宣伝販売促進会議を開催し、全国から700人の参加があり山陰の観光素材のPRを行った。

OH30 キャンペーン当該年度
 ・プレキャンペーンで旅行会社に提案してきた観光素材の磨き上げなどを行い、キャンペーン本番用の素材として旅行会社に提案した。結果として、DC専用パンフレットに掲載されるなど、旅行商品の造成に至った。
 ・キャンペーンに併せて、新たな観光列車「あめつち」の運行が決まり、鳥根の観光素材の充実が図られた。また、車内に石見の工芸品等が採用され、石見部の広告塔としての役割も期待できる。

OH31 アフターキャンペーン

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- 距離や移動手段等の問題から、山陽方面や関西方面からの観光客誘致に苦戦している。
- デスティネーションキャンペーンの目玉企画として観光列車「あめつち」の運行が開始されたが、現状では県全体への波及強化までは期待できない状態にある。

②困っている状況が発生している「原因」

- 出雲大社や石見銀山など鳥根を代表する観光施設以外の観光施設の知名度が低い。また、旅行商品に組み込まれるような観光客を誘致できる新たな観光素材が少ない。
- 観光列車「あめつち」は、運行区間が出雲以東となっており、石見部が外れている。

③原因を解消するための「課題」

- 県内市町村や観光事業者等と連携し、県内の観光資源の磨き上げや情報発信を行ってだけでなく、鳥取県やJR西日本米子支社との連携を継続・強化し、「山陰」として山陽方面や関西方面にアプローチしていく必要がある。
- 観光列車「あめつち」の運行区間を石見部まで延長してもらうためには、石見部の観光地としてのポテンシャルを上げていく必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 山陰デスティネーションキャンペーンのアフターキャンペーンを実施する平成31年度以降も、引き続き鳥取県やJR西日本米子支社との連携を継続・強化し、観光素材の発掘や磨き上げ、情報発信等に取り組んでいく。
- 観光列車「あめつち」の運行区間を石見部まで延長してもらうために、継続して石見部の観光素材の発掘や磨き上げを行うとともに、まずは「あめつち」を組み込んだ石見部の旅行商品の造成を目指して、地元やJR西日本米子支社と連携して旅行会社に働きかけていく。